

埋蔵文化財情報管理システムの概要と情報公開

高見憲次

An Outline of Information Management System and Information Opening to the Public about Buried Cultural Properties

Takami Kenji

要旨

情報化社会といわれる今日、情報通信分野でのインフラ整備（通信施設や情報基盤、ネットワークなど）が進み、インターネットやネットワークによる情報の公開や共有がより身近になってきている。また、デジタル化やデータベース化による情報の活用が重要視されるようになってきている。

そこで、本県では平成14年度開園の「鹿児島県上野原縄文の森」整備の一環として、平成12年度より、埋蔵文化財に関する情報の集積・発信及び普及・啓発のため、県立埋蔵文化財センターならびに上野原縄文の森展示館内に情報管理システムの導入を行った。

ここでは、当センターにおける情報の管理・運営、さらには公開について述べることにするが、特に、埋蔵文化財情報管理システムを利用したデジタル・データベース化とインターネットによる情報公開への取り組みを報告したい。

キーワード：埋蔵文化財情報管理システム、データベース、ネットワーク、インターネット

1 はじめに

当センターは平成14年4月に大きな転機を迎えた。上野原縄文の森への移転である。国指定史跡である上野原遺跡を中心に鹿児島の古代文化を紹介する園内への移転は、これまでの埋蔵文化財保護に関する業務をさらに推進させることはもとより、上野原縄文の森の重要な設置目的のひとつである「情報公開」の一角を担う施設としてその働きを求められることとなった。

2 埋蔵文化財情報管理システムの目的

- (1) 埋蔵文化財に関する資料について、デジタルデータベース化による一元的なデータ整理・管理を行う。
- (2) 館内LANを構築し、調査・研究業務の効率化と調査・研究水準の向上を図る。
- (3) デジタル化された情報をもとに、インターネット等を通じ、調査・研究成果等や最新の発掘情報を広く一般に公開したり、県内外の研究機関等と情報交換するなど、情報の発信機能を強化する。
- (4) 埋蔵文化財センターに隣接する上野原縄文の森展示館内のクライアント端末により、データベースサーバに登録された画像データ及び閲覧用の文書データ等を、来館者が手軽に検索・閲覧できるようにするなど、埋蔵文化財センターと上野原縄文の森との連携を図る。

3 システム開発及び機器導入の経緯

平成12年8月、職員でネットワーク形態及び情報機器等の検討を行い、それをもとに情報管理システムの基本計画・

仕様書を作成した。

平成13年9月、埋蔵文化財情報管理システム仕様書に基づき一般競争入札によって決定した委託業者と技術面に関する協議を進め、最終的なシステムの設計を固めた。同時に埋蔵文化財センター研修室に館内ネットワークに取り込んだ映像システムの機器選定を行った。

平成14年4月、当センターの上野原縄文の森施設内への移転と同時期に、既存のインターネット接続環境の見直しを行い、公開予定の情報量や利便性から自前のWebサーバと独自ドメインによる運用を基本とした接続形態を検討した。

同年6月、上野原縄文の森の地理的な理由と費用の問題から、専用線（128 kbps）による接続が現状としては上限であるとし、独自ドメイン申請とともに9月からの回線使用契約を行った。独自ドメインに関しては「上野原縄文の森からの情報発信」であるため、jomon-no-mori.jpとして申請した。同時にメールアドレスの取得も行った。

同年9月、インターネット接続環境が整備されたことから、Webサーバ等の設定を行い、並行して当センターホームページを全面リニューアルし、鹿児島県上野原縄文の森ホームページに統合した形で運用を開始した。また、データベースへの登録が完了した遺跡・遺構・遺物のデジタルデータをインターネットへ公開し、動作の検証を行った。

同年10月5日、上野原縄文の森開園に伴い、正式に情報の公開を開始した。

また、研修室においては一般見学者に対し映像システムを利用したセンターの紹介を随時行うこととした。